

浅間古墳を臨み 東征す

倭王権とスルガの王

シンポジウム資料集

令和6年10月

富士市教育委員会・沼津市教育委員会
三島市教育委員会・富士宮市教育委員会
伊豆の国市教育委員会

例言

- 1 本書は、令和6年度須津古墳群出張展示事業関連講演会・令和6年度 富士市文化財シンポジウム『浅間古墳を臨み 東征す 倭王権とスルガの王』の資料集である。
- 2 本事業は、富士市教育委員会・沼津市教育委員会・三島市教育委員会・富士宮市教育委員会・伊豆の国市教育委員会の共催により実施した。
- 3 本書の編集は、富士市教育委員会文化財課が行った。

目次

【開催趣旨】	佐藤 祐樹（富士市教育委員会）	1
【記念講演】「墳丘からみた東駿河の前期古墳」	青木 敬（國學院大學）	4
【事例報告】「富士市 浅間古墳」	佐藤 祐樹（富士市教育委員会）	15
「富士宮市 丸ヶ谷戸墳丘墓」	原 悠翔（富士宮市教育委員会）	16
「伊豆の国市 山木遺跡」	島田 章広（伊豆の国市教育委員会）	17
「沼津市 高尾山古墳・神明塚古墳」	木村 聡（沼津市教育委員会）	18
「三島市 向山 16号墳」	近藤 史昭（三島市教育委員会）	20
「函南町 瓢箪山古墳」	山下 優介（国立歴史民俗博物館）	21

シンポジウム開催概要

- ・タイトル 『浅間古墳を臨み 東征す 倭王権とスルガの王』
 - ・開催日時 令和6年10月19日（土）10時～16時
 - ・開催場所 富士市交流プラザ 多目的ホール（富士市富士町20-1）
 - ・タイムスケジュール
- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 10:00 開会 | |
| 10:02 主催者挨拶 | |
| 10:05 【趣旨説明】 | |
| 【事例報告】「富士市浅間古墳 調査成果報告」 | 佐藤 祐樹（富士市教育委員会） |
| 11:00 【記念講演】「墳丘からみた東駿河の前期古墳」 | 青木 敬（國學院大學） |
| 12:00 休憩 | |
| 13:00 【事例報告】「富士宮市丸ヶ谷戸墳丘墓」 | 原 悠翔（富士宮市教育委員会） |
| 13:25 【事例報告】「伊豆の国市山木遺跡」 | 島田 章広（伊豆の国市教育委員会） |
| 13:50 【事例報告】「沼津市高尾山古墳」 | 木村 聡（沼津市教育委員会） |
| 14:15 【事例報告】「三島市向山16号墳」 | 近藤 史昭（三島市教育委員会） |
| 14:40 【事例報告】「函南町瓢箪山古墳」 | 山下 優介（国立歴史民俗博物館） |
| 15:05 休憩 | |
| 15:20 【パネルディスカッション】 | 司会：藤村 翔（富士市教育委員会） |

【表紙の写真・図】

- 【左上】高尾山古墳出土 浮形式帯帯鏡 / 沼津市教育委員会 蔵
- 【左下】ドローンを使用したレーザー測量で浮かび上がった浅間古墳

- 【右下】日本書紀に見るヤマトケルルの東征ルート
- 【背景】駿河湾から臨む富士・愛鷹山 / 撮影：小澤 絵

開催趣旨

静岡県富士市に所在する国指定史跡浅間古墳（前方後方墳・約91m）をテーマにした報告会は、令和2年度に新型コロナウイルスが猛威を振るう中、オンライン配信という形で実施いたしました。オンライン報告会では、近年、浅間古墳で実施した地中レーダー探査（令和元年度）によって発見された後方部墳頂の埋葬施設の存在やドローンを使用した空中レーザー測量の成果（令和2年度）など、浅間古墳そのものの実態解明につながる調査成果についての報告を行いました。また、筑波大学滝沢誠氏からは駿河・伊豆の古墳時代前期の様相についても丁寧に整理がなされました（滝沢 2022）。

この報告会の実施（オンライン配信）後、浅間古墳に対する考古学的な調査が進化したわけでもなく、すでに浅間古墳を取り巻く多くの本質的価値について提示してはいるか、というご指摘もあるかもしれません。しかし、東駿河（伊豆を含む。以下、スルガ）という枠組みのみで浅間古墳への理解を終わりにできないと考えています。滝沢氏も指摘するように浅間古墳のように竪穴式石櫛を埋葬施設とし、かつ墳丘に墓石を施す大型前方後方墳というのは、前方後円墳の影響下で成立している可能性が高いことから、浅間古墳に対する評価は前方後円墳という墓制を確立させた倭王権を含めた広範囲の中でなされるべきであると言えます。

スルガでは富士宮市丸ヶ谷戸遺跡前方後方墳丘墓が弥生時代終末期に造られた後、沼津市高尾山古墳、沼津市神明塚古墳、富士市浅間古墳、富士市東坂古墳という前方後円（方）墳が浮島ヶ原を取り囲むように次々と築造されており、「浮島ヶ原ネットワーク」といえる地域社会を形成していたと推測されています（佐藤 2018）。一方、スルガの東側では明確な竪穴式石櫛を有する三島市向山16号墳の築造をきっかけに、函南町瓢箪山古墳という大型の前方後円墳が2基連続して築造され、伊豆半島北部における地域社会の存在を想定させられるようになりました。

今回のシンポジウムでは「古墳の視認性」をテーマとして、浅間古墳が築造された4世紀を前後する時期の古墳や集落の様相を確認していくことで、浅間古墳単体では示すことのできない列島規模での政治的戦略を見ていくことを目的とします。前方後円墳の築造は倭王権による承認制であり、首長の系譜・格式を示す【古墳の形】と【古墳の規模】こそが首長の力の差を示すという社会システムが存在（「前方後円墳体制」）したと考えられています（都出 1991）。そのため、古墳を【墓】としてのみ捉え、その副葬品を分析するだけではなく、古墳の築造は倭王権による広域的なネットワークの可視化であるとの視点からの分析も必要となります。

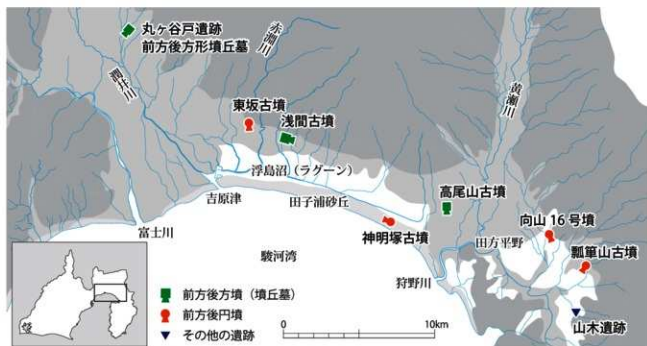


図1 古墳と遺跡の位置

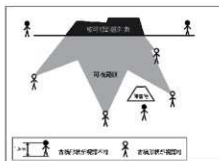
浅間古墳をはじめとする海浜部を強く意識して築造された「海浜型前方後円(方)墳」(広瀬 2015) 同士がネットワーク化し、さらに、それが強靱に機能するためには、補給所としての良好な港湾(駿河湾でいえば浮島ヶ原)の存在が不可欠で、「沿岸豪族の綿密な連携と安全保障体制の存在が推定」されています(若狭 2018)。それら海上交通の要衝に立地する古墳の存在から推定される【海の道】と河川や陸路を利用する内湾・内陸交通の要衝に立地する古墳の存在から推定される【内陸の道】のネットワーク化こそが倭王権の政治・経済・軍事の安全保障を目的とした交通戦略ともいえます。

例えば、函南町瓢箪山古墳は伊豆半島を海路ではなく陸路で東に進むためのルート上(現在の「熱函街道」)から見えるように築造され、さらに、三浦半島を進むルート上に長柄桜山1・2号墳が造られていることは、前方後円(方)墳が交通戦略上、計画的に築造されていたことを示しており、古墳の「視認性」の重要性を物語っています(佐藤 2019)。

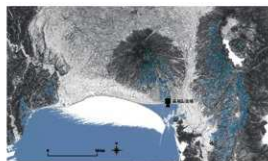
さらにそのルートは、『古事記』『日本書紀』に記されたヤマトケルの東征ルートに反映されているとする指摘(若狭 2017・2022)も、大変興味深い指摘と言えます。その点も今回のシンポジウムで確認していきたいと考えています。なお、『古事記』と『日本書紀』では示される東征ルートは若干異なるため、以下に整理しておきます。

『古事記』

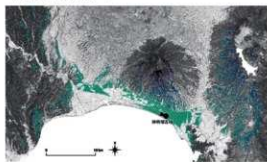
大和-伊勢[伊勢神宮](草薙剣・火打石を受け取る)-尾張(国造の祖先 美夜受比売と結婚の約束)-相模[烧津][走水](国造に騙されるも草薙剣・火打石を使い反撃、御船で進む)-常陸[新治・筑波]-相武[足柄峠]-甲斐[酒折宮]-科野-尾張-近江[伊吹山]-伊勢[能褒野](亡くなり、陵を造る・白鳥が飛び翔ける)-河内[志幾](陵を造る)



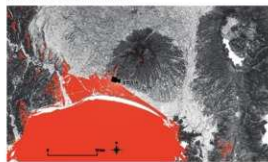
可視領域の概念図



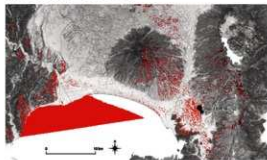
高尾山古墳の可視領域



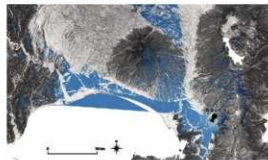
神明塚古墳の可視領域



浅間古墳の可視領域



向山16号墳の可視領域



瓢箪山古墳の可視領域

※ 可視領域の分析データ・概念図は、菅原芳郎氏より提供を受けた。

図2 古墳の可視領域

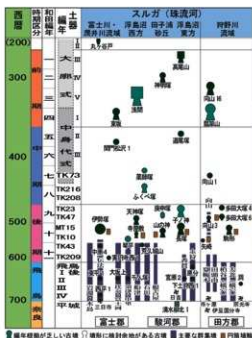


図3 スルガにおける古墳の変遷



図4 記紀に見るヤマトケルの東征ルートと前期古墳の関係

『日本書紀』

大和-伊勢[伊勢神宮]（草薙剣・火打石を受け取る）-駿河[焼津] -相模[馳水] -上総-[葦浦・玉浦]（鏡を船に揚げ海路）-陸奥[竹水門] -常陸[新治・筑波] -甲斐[酒折宮] -武蔵-上野[碓日坂]（古備武彦を越の国に遣わす）-信濃-美濃（古備武彦を越の国から合流）-尾張-近江[伊吹山] -伊勢[能褒野]（亡くなり、陵を造る・白鳥が飛び翔ける）-大和[琴弾原]（陵を造る）-河内[古市邑]（陵を造る）

今回のシンポジウムは、各市の古墳時代前期の古墳・遺跡を出発点として、スルガにおける地域社会のあり方を列島規模で理解していこうという問題意識を共有した県東部域の学芸員が、約2年前に集結し自主的な研究として企画をスタートさせました。最終的には行政単位を超えた【文化財活用における広域連携の実践】として富士市教育委員会、沼津市教育委員会、三島市教育委員会、富士宮市教育委員会、伊豆の国市教育委員会による共催という形で実施できたことも本シンポジウムの大きな到達点ともいえます。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催に向けて、ご尽力いただいた多くの方々に感謝申し上げ、開催趣旨といたします。

参考文献

- 佐藤祐樹 2018「駿河・遠江における古墳出現期の様相—浮島ヶ原における首長系譜を中心に—」『東海地方における古墳出現期の様相2』第30回考古学研究会東海例会
- 佐藤祐樹 2019「伊豆・駿河における前期古墳の視認性—太平洋岸域における古墳のあり方—」『伊豆瓢箪山古墳の研究』筑波大学人文社会科学部研究科歴史・人類学専攻
- 滝沢 誠 2022「浅間古墳と古墳時代前期の東日本」『富士市内遺跡発掘調査報告書—令和2年度—』
- 都出比呂志 1991「日本古代の国家形成論序説—前方後円墳体制の提唱—」『日本史研究』343
- 広瀬和雄 2015「海浜型前方後円墳を考える」『海浜型前方後円墳の時代』かがわ考古学財団編 同成社
- 若狭 徹 2017「前方後円墳と東国社会（古代の東国1）」吉川弘文館
- 若狭 徹 2018「古墳時代<東日本>」『日本考古学・最前線』日本考古学協会編 雄山閣
- 若狭 徹 2022「前方後円墳の社会的機能に関する一考察」『律令制国家の理念と実像』吉村武彦編 八木書店

開催までの検討会

- 令和4年11月22日 沼津市高尾山古墳出土土物検討
- 令和5年5月2日 シンポジウム内容打合せ
- 令和5年5月26日 シンポジウム内容打合せ
- 令和5年6月11日 シンポジウム内容打合せ
（富士市浅間古墳など巡視・富士宮市九ヶ谷戸遺跡出土土物検討）
- 令和5年8月6日 シンポジウム内容打合せ
（伊豆の国市木遺跡出土品検討）
- 令和5年8月23日 沼津市高尾山古墳出土土物調査検討
- 令和5年9月23日 三島市向山16号墳・函南町瓢箪山古墳巡視
- 令和6年3月1日 三島市向山16号墳・富士市浅間古墳視察
- 令和6年6月28日 シンポジウム内容打合せ
- 令和6年7月15日 國學院大学青木先生ほかとスルガ古墳巡視

墳丘からみた 東駿河の前期古墳

青木 敬
(國學院大學文学部)

本日の話題

1. 巨大前方後円墳の出現とその評価
2. 関東地方における古墳の出現と展開
3. 駿河東部の前期古墳
4. まとめ

【本日の目的】

駿河東部における前期古墳の評価と歴史的意義について、近畿地方の巨大前方後円墳築造や、周辺地域での前期古墳の築造の意義をふまえつつ、私見を述べる。

1. 巨大前方後円墳の出現と展開

箸墓古墳空撮写真と赤色立体図

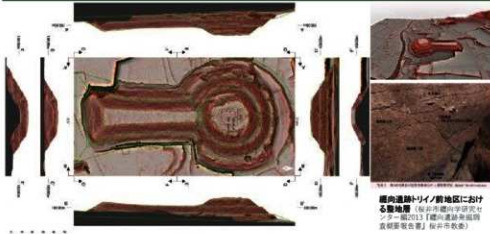
(奈良県立橿原考古学研究所提供)

ほぼすべて**盛土**の墳丘⇒周辺地域から採土、造墓行為に限定した古墳築造



箸墓古墳の墳丘側面

桜井茶臼山古墳の墳丘復元と評価



桜井茶臼山古墳の墳丘の評価

- 墳丘は全て地山削り出し…森林伐採・排土の行方
 - ⇒周辺部の開発と連携した古墳築造だったと推定できる
- 被葬者は、開発王的な性格を有していた可能性がある。
- シンメトリックな墳丘…高い水準の測量術、膨大な労働力の統制
 - ⇒弥生墳丘墓の延長で達成可能なのか？中国など他地域の影響は？
- 朱の国産化、三大鏡群すべてを大量副葬（計103面以上）、高品質化した石製品や鉄製品（いずれも「国産」）
 - ⇒巨大前方後円墳の出現と「国産化」との関連
- 高度な技術による国産化の達成（どこの技術を基盤としたのか）、初期倭王権の再評価

桜井茶臼山古墳と宝萊山古墳

- ① 桜井茶臼山古墳の後円部（下段）の中心点は、中段以上のそれとずれる
 - ⇒各段の中心点がずれる一般的な例とやや異なる
 - ⇒墳丘すべてが地山削り出しであることから、墳丘下段の構築（削り出し）は、墳丘構築の最終段階であることがほぼ確実といえる。
- ② 宝萊山古墳は、後円部墳裾ラインがずれるものの、くびれ部の位置や楕形の前方部とその前縁など酷似する。以上の点から、宝萊山古墳は桜井茶臼山古墳の相似墳とみてよい。ただし、設計画では共通するものの、測量術をはじめとする施工技術は、在地性が強い。東日本の工法という墳丘構築技術とも関連するか。



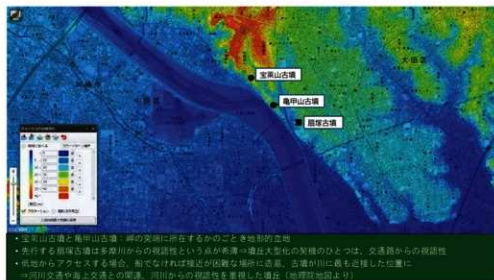
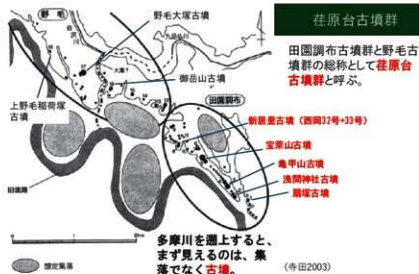
2. 関東地方における古墳の出現と展開

関東における前方後円墳の広がり (若狭2022)



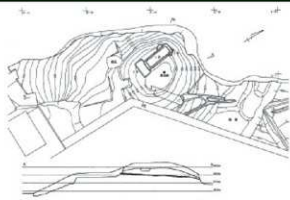
上毛野：前期中頃に前方後方墳から前方後円墳に転換

図1 関東における前方後円墳の広がり
(若狭2022)





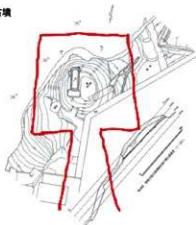
扇塚古墳(東京都大田区)



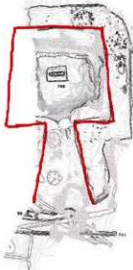
(扇塚古墳発掘調査図 (編) 2001より)

- 墳丘の損壊が激しく詳細不明、推定墳丘長40m程度、木炭櫛。
- 周溝の形状からみて**前方後方墳**の可能性が高い。
- 小丘を覆うように墳丘を構築…**東日本の工法**と判断、墳丘盛土は1m前後。
- 墓坑なし。
- 墳形・墳丘構築技術・出土土器など…東海地域の影響、駿河東部の影響も

扇塚古墳

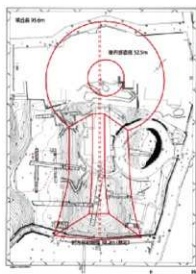


高尾山古墳



扇塚古墳を2倍し、高尾山古墳の墳丘外形線をはめ込むと、外形線やくびれ部、周溝の傾きなどが類似することが分かる。

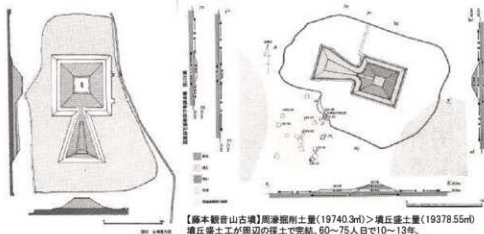
扇塚古墳と高尾山古墳の類似性



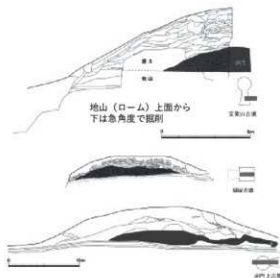
宝菜山古墳の墳丘復元

- ・推定墳丘長**95.6m** (97.5m)
- ・後円部推定直径**52.5m** (52m)
- ・後円部高11m
- ・前方部前端幅**38.2m** (37m)
- ・前方部高8m
- ・墓坑なし
- ・周溝なし、ただし周囲を掘り下げた痕跡を検出
⇒周溝による区画を重視する方形周溝から逸脱し、墳丘による隔絶を企図
- ・墳丘盛土は周囲の掘削土だけで充足
⇒排土を他に使うことはないと推測

元島名将軍塚古墳・藤本観音山古墳の築造

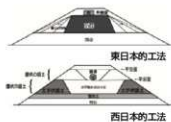


【藤本観音山古墳】周溝掘削土量(19740.3t) > 墳丘盛土量(19378.55t)
墳丘盛土工が周辺の採土で完結。60～75人日で10～13年。



東日本の工法の代表例

- ・墳丘中心付近から盛土、外側へ広げていく(青木2003)。
- ・西日本の工法採用せず、墓坑なし、段築なし、墓石なし、埴輪なし。
- ・宝菜山古墳では墳形以外の要素をみると、近畿地方とかわかる要素が極めて限られている。



3. 駿河東部の前期古墳

沼津市高尾山古墳



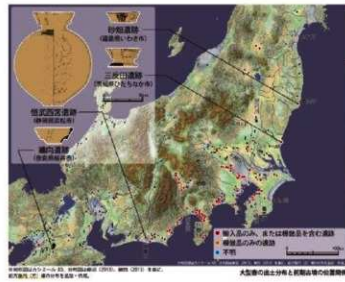
前方後方墳のインパクトから前方後円墳の築造を開始した可能性も考慮すべき

高尾山古墳は、2期と3期を分けており「前方後方墳」を併存していると考えられます。この結果、2期の墳が覆りながら築造されている可能性があります。

前方後方墳は、前方と後方がつながった形状で、前方は方形または長方形、後方は円形または半円形です。高尾山古墳は、前方が方形、後方が円形の特徴を持っています。これは、前方後方墳から前方後円墳へと変化する過程を示していると考えられます。



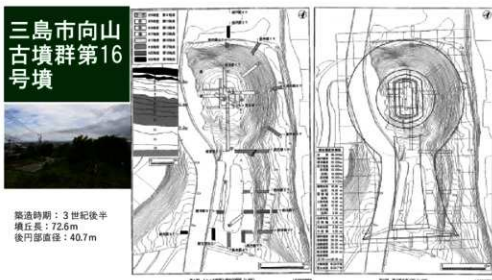
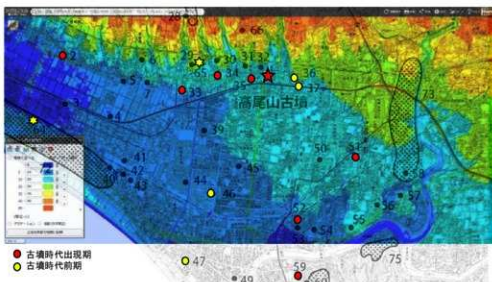
外系系土器（北陸系・東海西部系）が多く出土するにつれて、近畿の土器が認められない点に注意。



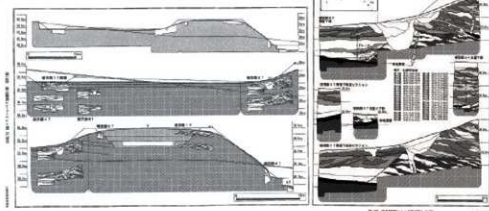
大廓式の大型壺の分布



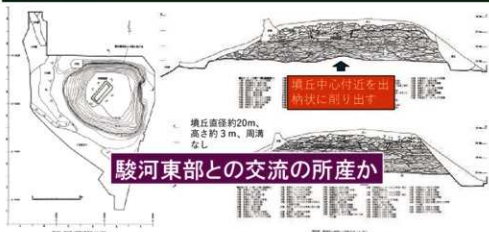
埼玉県東松山市高坂三浦町遺跡出土大廓式土器大型壺



向山第16号墳の墳丘断面



新羽南古墳（横浜市港北区）

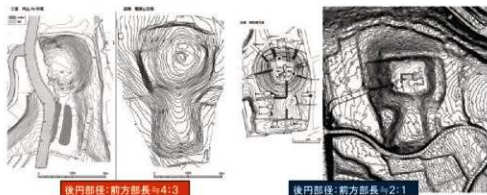


鶴見川流域の前期古墳

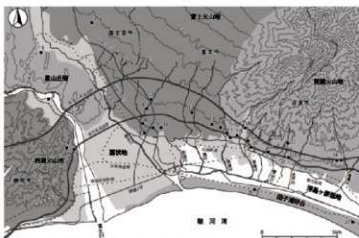
- ・（日吉台2号墳）→新羽南古墳→加瀬白山古墳→虚空蔵山古墳→観音松古墳
- ・ 中小規模の墳丘からはじまり、その後大型前方後円墳を築造する点は、在原台古墳群と似通う。
- ・ 加瀬白山古墳は視認性を強調しない地形的立地、つまり在原台古墳群の初現期にやはり類似する。

横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
2014「横浜の前期古墳」『まいぶん横浜』30





異なる墳丘の系統



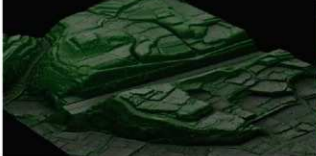
富士地域の古墳分布

富士市教委2013『船津古墳群II』より

- 1 浅沼古墳群 2 丸ヶ谷古墳群 3 中野古墳群 4 新成古墳群 5 山辺古墳群 6 中野4号墳 7 船津古墳 8 高平1号墳 9 中野古墳群
- 10 高平1号墳 11 湯入新出塚 12 船津古墳群 13 船津古墳群-大見山古墳 14 高見山古墳群 15 船津古墳群
- 16 船津古墳群-大見山古墳群 17 船津古墳群-大見山古墳群 18 船津古墳群-大見山古墳群 19 船津古墳群 20 船津古墳群
- 21 船津古墳群 22 船津古墳群 23 船津古墳群 24 船津古墳群 25 船津古墳群 26 船津古墳群 27 船津古墳群 28 船津古墳群

富士市浅間古墳 (前方後方墳、墳丘長91m、4世紀中墳)

堆山崩り出し部が多いと予想→崩しの行方→整地などの周辺の開発に抵抗したか?



墳丘周辺で遺跡が完結するのは、弥生墓以来の流れを受け継いだもの

4. まとめ

(1) 報告内容のまとめ

- ①集落域や生業域の先に奥津城が所在する駿河東部の前期古墳
⇒多摩川・鶴見川流域などと異なる土地利用と墳墓の見せ方
- ②開発の達成に際し、先進的かつ記念碑的な古墳を築造（高尾山古墳）
⇒多摩川（扇塚古墳）や荒川流域など、その後の各地への展開と関連か
- ③墳丘構築技術における向山古墳群第16号墳と新羽南古墳との類似性
⇒駿河地域東部と武蔵地域南部との交流、飛び石的（田中裕）
- ④開発を主導した（主導する）有力者（浅間古墳）
- ⑤駿河東部の勢力は、古墳出現期～前期にかけて坂東の開発に大きな役割を果たしたと評価できる。

(2) むすびにあたって

- ・文化財の価値を知り、未来へ伝えていくこと
- ・最も大切なことは、文化財を長く守り伝えてきた地元である
- ・文化財に対する地元の理解、提案+専門の見地⇒継続的な活用
- ・富士市・沼津市・三島市・函南町など：地域横断的な文化財の活用ができる素地（文化財の連絡協議会など）
- ・地元の意向をふまえた利活用が大事、地元で生きる人間が介在しない整備や活用は、人間の歴史を考えるにもかかわらず人間が見えてこない
- ・積み重なってきた歴史を維持した整備・活用⇒古墳築造当初の復元だけが整備の方法ではない

富士市 浅間古墳 国史跡

するがわん のぞ おうぼ
駿河湾から臨む王墓

佐藤 祐樹 (富士市教育委員会)

浅間古墳は駿河湾最奥部の愛鷹山南麓に4世紀中葉に築造された静岡県最大規模の前方後方墳です。近年の地中レーダー探査の結果、後方部中央に埋葬施設が存在することが確定しました。

とうかいさいだいきゆう おおがたぜんぼうこうほうふん
東海最大級の大型前方後方墳

浅間古墳は、全長90.8m に復元される墳丘の大部分が良好に残存しています。また、後方部の墳頂には長辺約 9.5m、短辺約 6.8mの竪穴式石室（もしくは、粘土槨）が埋設されていると考えられています。

するがわん おお み ふんきゆう
駿河湾から「大きく」魅せる墳丘

浅間古墳は、駿河湾や浮島沼のある南側が、愛鷹山がそびえる北側と比べ、一段高くなるように墳丘（基壇）が造られています。駿河湾側からの「視認性」を強く意識し、古墳の規模・存在をより大きく見せるよう、立地や墳丘の細部までが綿密に計画されていたとみられます。

すいじょう りくじょうこうつう しょうあく おう はか
水上・陸上交通を掌握したスルガ王の墓

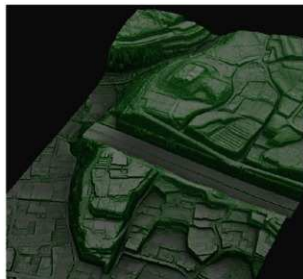
浅間古墳を築いた王は、水上交通の要である駿河湾から浮島沼の管理と、眼下を通る東西の街道（根方街道）、さらには甲斐・相模地域へと続く陸上交通の管理を担っていたと考えられます。倭王権と地域首長との列島規模の関係性を知る上でも、重要な古墳であるといえます。



浅間古墳上空から駿河湾方面を臨む



レーダー探査から推定される埋葬施設の範囲（後方部）



浅間古墳の墳丘と地形（陰影図）

富士のみやし まるが いと いせき ぜん ぼう こう ほう けい ふん きゅう ぼ 富士宮市 丸ヶ谷戸遺跡前方後方形墳丘墓

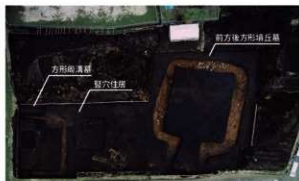
こ ふん しゅ つげん ぜん や ふん ぼ
古墳出現前夜の墳墓

原 悠翔 (富士宮市教育委員会)

丸ヶ谷戸遺跡の前方後方形墳丘墓は、後に沼津市域や富士市域で造られる前方後方墳の祖型と考えられる弥生時代終末期の墳墓です。墳丘は後世の削平によって失われていましたが、前方後方形にめぐる周溝内から、儀礼に用いられた土器が見つっています。

しんらい ぼ せい ぜん ぼう こう ほう けい ふん きゅう ぼ 新来の墓制—前方後方形墳丘墓—

丸ヶ谷戸遺跡は1989年に第一次調査が行われ、前方後方形墳丘墓のほか、方形周溝墓や竪穴住居が発見されました。前方後方形墳丘墓は全長26.2m、周溝の幅は最大4mで、3世紀前半に造られたと考えられます。前方後方形墳丘墓は東海西部にその初現を求められる墓制であり、スルガでは外来の新しい墓制と言えます。



丸ヶ谷戸遺跡の調査状況

このお墓には
どんぐんが
埋葬されたんでしょう？



かっぱつ か えんかく ち こうりゅう 活発化する遠隔地との交流

前方後方形墳丘墓からは東海西部（濃尾平野周辺）を中心とした外来の土器が多く出土しており、近畿の土器も確認されています。このような他地域からの土器の流入は、地域間交流の活発化を示すものであり、新たな時代への移り変わりを示唆しています。



前方後方形墳丘墓出土の土器

あたらし ちいき 新しい地域のリーダー

丸ヶ谷戸遺跡が登場するまで、現在の犬岩地区一帯には遺跡が存在していませんでした。

しかし、弥生時代終末期から古墳時代の始めにかけて、集落や墓域が形成されます。

この前方後方形墳丘墓は、積極的に東海西部を中心とした文物を採用した新しい開拓者たちの象徴であったと考えられます。



丸ヶ谷戸遺跡の前方後方形墳丘墓

いずくにしやまきいせき 伊豆の国市 山木遺跡

たがたへいや ぶつりゅうきよてん
田方平野の物流拠点

島田 章広 (伊豆の国市教育委員会)

山木遺跡は伊豆半島の付け根部分、北伊豆内陸部のほぼ中央に位置する遺跡です。遺跡の範囲は南北1.3km、東西1.1kmの広大な範囲であり、遺跡からは住居や水田のほか、列島各地との交流を示す土器などが見つかっています。

めぐみ だいち たがたへいや 恵みの大地 “田方平野”

山木遺跡の範囲の大部分は「田方平野」と呼ばれる伊豆半島北部の肥沃な大地に位置しています。山木遺跡からは水田や「ネズミ返し」などの農業生産にかかわる木製品も多く見つかり、豊かな土地を求めた人々が周辺に集まってきたと考えられています。

えんかくち しめ どきぐん 遠隔地とのつながりを示す土器群

山木遺跡からは近畿や北陸、関東などの地域から持ち込まれた土器が多く出土しています。このことは、本遺跡が伊豆半島北部における中心的な集落であったことを示し、田方平野を中心に東日本と西日本のかけ橋になっていたことがうかがえます。田方平野は、豊かな土地を求めた人々や技術が集まるスルガの先進地帯でもあったのです。



水田と用水路の跡



農耕や生活にかかわる木製品／重要有形民俗文化財



国内で初めて組み合わさった状態で見つかったネズミ返し

沼津市 高尾山古墳

国史跡



ぬまづし たかおさんこふん
スルガ最初の「王」、ここに眠る

木村 聡 (沼津市教育委員会)

高尾山古墳はスルガにおける最も古い古墳です。浮島沼の最東部に位置し、眼前の平野や駿河湾、さらには狩野川河口部からも見ることができるとされる好立地に築かれました。

古墳時代の幕開け

高尾山古墳は出土品から3世紀中ごろに築かれた東日本最古級の前方後方墳で、全長は62mと同時期の古墳の中では最大級の大きさです。丸ヶ谷戸遺跡の墳丘墓も前方後方形の墓ですが、高尾山古墳は大きさが倍、墳丘の高さも5mもあることから、土量はケタ違いに大きくなっています。

さらに高尾山古墳は後方部と前方部の比率がほぼ1:1、埋葬施設も後方部の中心に作られており、単に土を盛っただけではなく、その背景には複雑な計算やそれを実現するための高度な測量技術があったと考えられます。



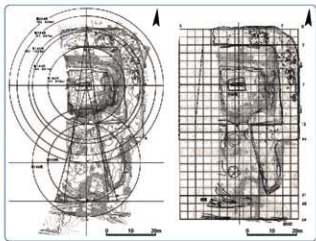
高尾山古墳の調査状況



埋葬施設の遺物出土状況
(鏡、鉄鏃、橋の痕跡)



埋葬施設の調査状況



高尾山古墳の設計企画の推定(左:寺澤厚家、右:北條芳隆案)

遠隔地とのつながりを示す遺物群

高尾山古墳の埋葬施設からは、鏡や鉄製の武器、勾玉などが出土しました。これらは当時では大変な貴重品であり、もちろんスルガで作られたものではありません。どのようなルートでもたらされたのかについては諸説ありますが、高尾山古墳に埋葬された「王」が、遠く離れた地域とも交流を持つ人物であったことが想像できます。



高尾山古墳の副葬品及び棺上出土遺物

ぬまづし しんめいづか こふん

沼津市 神明塚古墳 市史跡



かたち ゆめみ
その形はヤマトを夢見るのか

木村 聡 (沼津市教育委員会)

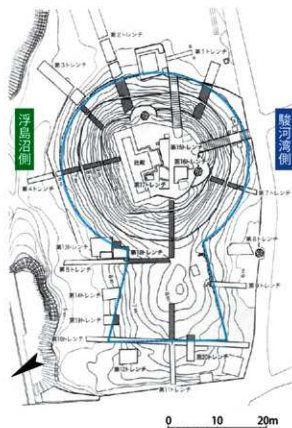
神明塚古墳は沼津市内で最も古い前方後円墳で、浮島沼南側の砂丘の緩い斜面に築かれています。「王」の墓であり、浮島沼水運の目印になるような巨大なモニュメントでもありました。

ぬまづし ない さいしよ ぜんぼうこうえんふん 沼津市内の最初の前方後円墳

神明塚古墳は、3世紀後葉から4世紀初頭に築かれた全長約53mの前方後円墳です。高尾山古墳に次いで築かれた王墓ですが、形は西日本にルーツをもつ前方後円形をしています。高尾山古墳が前方部と後方部の長さがほぼ1:1であったことに比べ、神明塚古墳の前方部の長さは後方部よりも2/3短くなっています。このいびつな形は前方後円墳の中でも古い形のもので、そのルーツはヤマト（現在の奈良県）にあるといわれています。

とくちょうてき かたち み 特徴的な形はどこから見える？

古墳の立地や北側を高く盛る墳丘の特徴から、海側ではなく、浮島沼側から見られることを強く意識している点も重要です。この古墳に葬られた王は、高尾山古墳の「王」の時代よりも優王権とのかかわりが深い、浮島沼周辺を治めた人物であったと考えられます。



神明塚古墳測量図



神明塚古墳と古墳の上に鎮座する神明社



明治～大正時代ごろの浮島沼

三島市 向山 16 号墳

県史跡



「**竪穴式石室**」に眠る**王の墓**

近藤 史昭（三島市教育委員会）

向山古墳群第16号墳（以下、向山16号墳）は、大場川左岸の丘陵上に4世紀中葉に築造された前方後円墳です。「**竪穴式石室**」という板石積みの埋葬施設を持つのが、この古墳の最大の特徴です。

田方平野を通る道を意識した古墳

向山 16 号墳は、箱根山西麓の尾根の末端部に位置しています。後円部を富士山の方向に向け、田方平野が開けた西側からよく見えるよう意識して築かれました。田方平野には大場川や御殿川などの川が流れ、まわりからはこの古墳と同時代の遺跡がみつかっています。さらに、川の周辺には浮島沼から田方平野へと続く道があったことが予想できます。これらの集落や道から古墳が見えることが、とても重要でした。



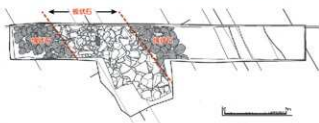
後円部側からみた墳丘



向山16号墳から箱根山方面を臨む

竪穴式石室から見える倭王権との深い関係

向山 16 号墳の竪穴式石室は、直径 10 ～ 30 cm 程度の石で構築され、中央あたりに板状の石、周囲に塊状の石が使用されています。また、中央部は板状の石をアーチ状に積み上げて石室に蓋をしている点もみどころです。このような石室のスタイルは奈良県の黒塚古墳や中山大塚古墳などと類似し、向山 16 号墳を築いた王が、遠く離れた倭王権中枢の勢力と深い関係をもっていたことを私たちに教えてくれます。



向山16号墳の竪穴式石室

かん なみちよう ひょうたん やま こ ふん 函南町 瓢箪山古墳

ひがしに ほん
スルガから東日本へ

山下 優介 (国立歴史民俗博物館)

瓢箪山古墳は、田方平野東部の丘陵先端に4世紀後葉に築かれた前方後円墳です。その規模から、伊豆を代表する王墓であることは間違いなく、また立地は、この地域の役割や交通路を考える上でとても重要です。

いず ほんとう さいだい ぜんぼう こうえんふん 伊豆半島最大の前方後円墳

伊豆半島では、全長 50mを超える大きな前方後円墳の存在が明らかではありませんでしたが、近年の調査によって知られるようになりました。2016～2019年の測量と発掘調査の結果、瓢箪山古墳は全長約 87mの前方後円墳で、その築造時期は古墳時代前期後半と推定されました。



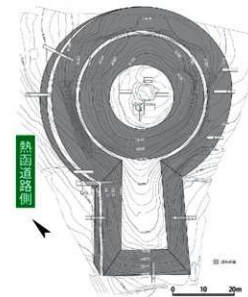
空から見た瓢箪山古墳 / (株)ウインドネットワーク提供図に加筆



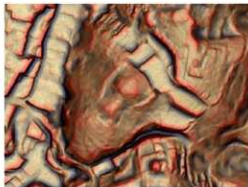
瓢箪山古墳と熱函道路の位置 / 筑波大学人文社会科学研究所歴史人類学専攻2019

ひょうたん やま こ ふん りっち 瓢箪山古墳の立地とつくり

瓢箪山古墳は、伊豆半島の付け根を横断し、海路を経て関東へといたる道（現在の熱函道路）の入口に立地します。発掘調査の結果、道側の墳丘が反対側に比べ、一段多いことが確認されましたので、道側からの見え方を意識して古墳が造られたといえます。前方後円形の墳丘であることも考えれば、交通の要である伊豆北部と、倭王権との関係性が強まった可能性が考えられます。



瓢箪山古墳墳丘復元図 / 筑波大学・滝沢誠提供図に加筆



航空レーザー測量図で見た瓢箪山古墳 / 静岡県森林クラウド公開システム提供図に加筆



本日のアンケート
20日中に回答を
お願いします



令和2年度
浅間古墳オンライン
調査報告会動画
(YouTube)



浅間古墳のこれまでの
調査成果について
PDFデータあり
(市ホームページ)



令和6年度
スルガ古墳紀行
資料集新規 アップ
(市ホームページ)



沼津市
高尾山古墳
出土品展解説動画
(YouTube)



富士市
文化財課公式
Instagram



富士市
文化財課公式
X (旧 Twitter)

令和6年度 沼津古墳財物展示事業関連講演会 令和6年度 富士市文化財シンポジウム

浅間古墳を臨み 東征す

倭王権とスルガの王

シンポジウム資料集

発行年月日 令和6年10月19日

編集 富士市教育委員会

発行 富士市教育委員会・沼津市教育委員会
三島市教育委員会・富士宮市教育委員会
伊豆の国市教育委員会